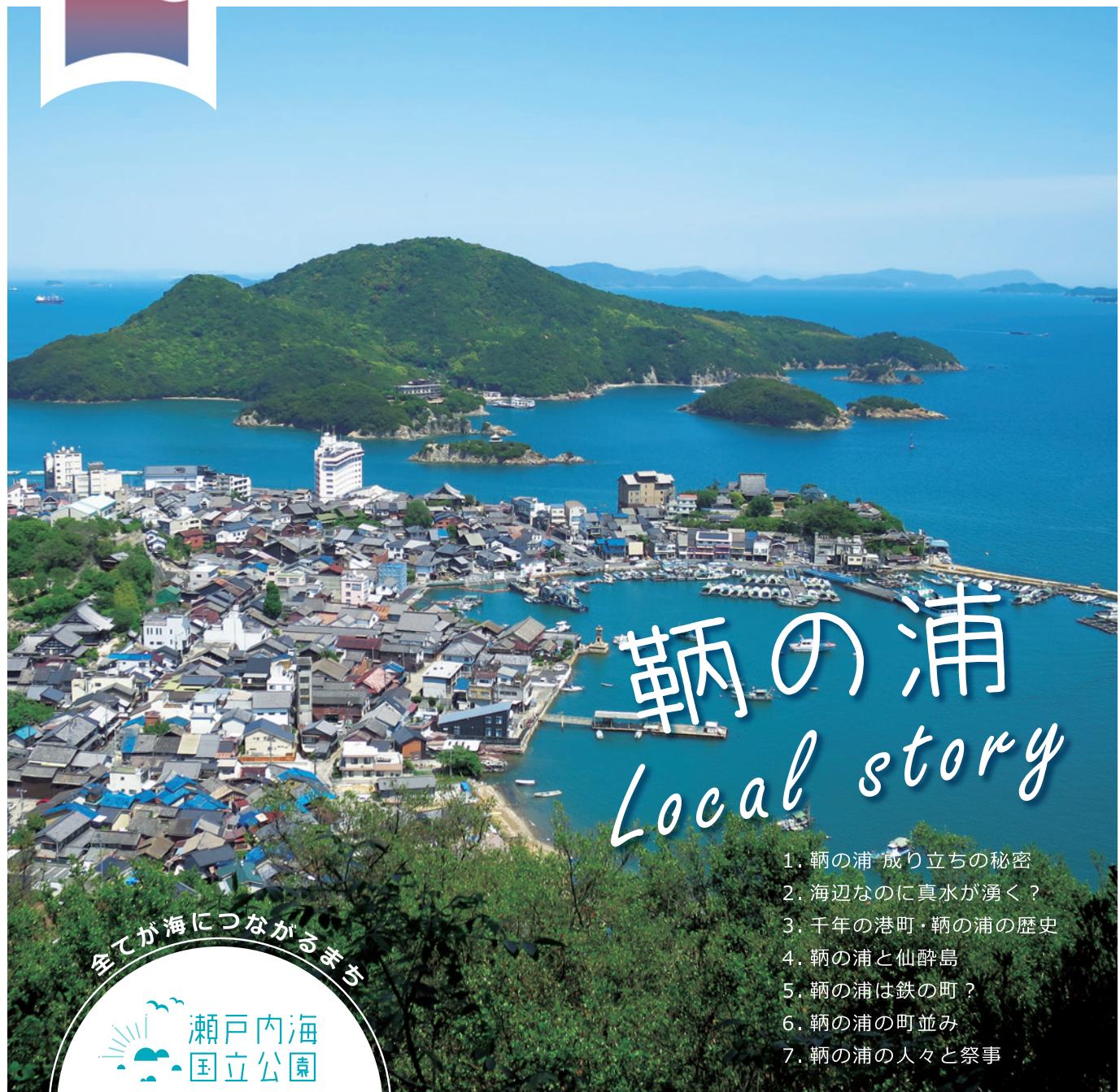


National  
Parks  
of Japan



瀬戸内海国立公園 地域ストーリー



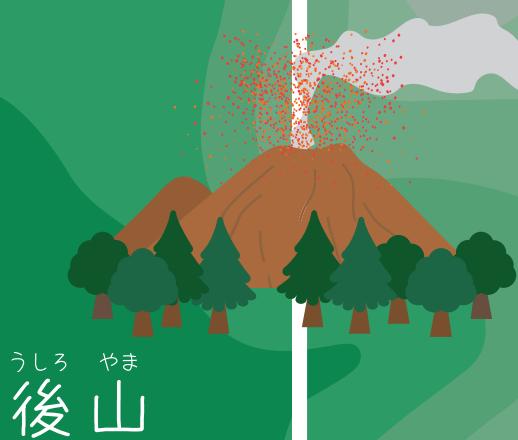
Setonaikai National Park

TOMONOURA



1. 鞆の浦 成り立ちの秘密
2. 海辺なのに真水が湧く？
3. 千年の港町・鞆の浦の歴史
4. 鞆の浦と仙酔島
5. 鞆の浦は鉄の町？
6. 鞆の浦の町並み
7. 鞆の浦の人々と祭事

### 大規模な火山活動 03



### 鞆の浦の町並み 09



### 砂洲の形成 04



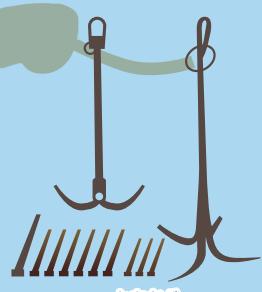
→ 埋立ての変遷は 06 へ 提供: 福山市教育委員会

### 海辺に湧く真水 05



共同井戸

### 鞆の浦と鉄 08



ともかじ  
鞆 鍛冶

にしんかす  
干いわし

## 海と人がつなぐ、鞆の浦と仙酔島

おもちゃ箱をひっくり返したような港町

鞆の浦は、東西から入ってきた潮流がぶつかることで潮待ちの港町として発展し、その歴史は約千年前から続いています。

そこには、知られざる産業や港町として発展した背景、今も続く伝統行事など、たくさんの『モノ』『コト』が散りばめられています。

それらをつなぎ、つなげてきたのは、海と人でした。

### じびきあみりょう 地曳網漁

戦後くらいまでは  
地曳網漁で  
魚を探っていたんだ！



## 仙酔島

皇后島

ごしきいわ  
五色岩かいじょくどう  
海食洞

つつじ島

### 潮流の変わり目 02



### 潮待ちの港・商業の港 06



輸入  
↑  
↓  
輸出

木綿、ござ、  
鉄製品



夕暮れの鞆の浦 提供：福山観光コンベンション協会

## 1. 鞆の浦 成り立ちの秘密

### 地形・地質と潮流から読み解く 鞆の浦繁栄の理由



＜鞆仙酔層＞

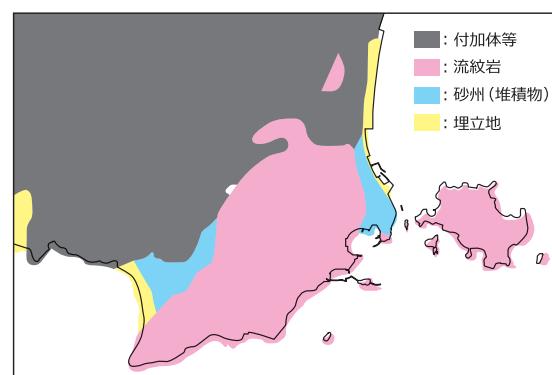
鞆の浦は、瀬戸内海における潮待ちの港として室津・御手洗などとともに古来より栄え、中世には物資の集散地として宿屋・遊女屋が軒を連ねて繁栄し、江戸時代には福山藩の積出港として中継的問屋商業が栄えました。また、国内のさまざまな地域の人々が集まって交流し、文化や情報の交換が行われた文化交流の場でもありました。どうして、鞆の浦は港町としてこれ程繁栄できたのでしょうか。そこには、地形や地質といった鞆の浦の成り立ちや立地がかかわっているのです。

### 【火山活動】

～後山と仙酔島の成り立ち～

今から約9,000万年前（白亜紀後期）、鞆の浦の一体では大規模な火山活動がありました。鞆の浦の背後にある後山や仙酔島をはじめとする島々は、そのときに起きた大規模な火山活動による火碎流の堆積物（流紋岩）によって主に構成されています（ピンク色の範囲）。これは600℃以上の火山ガスや火山灰が混合して高速で流れ下ったものです。また、この流紋岩中には砂岩や泥岩の薄層が挟まれています。

仙酔島が噴火活動によって誕生した当時はまだ瀬戸内海ではなく、周辺には陸地が広がっていたようです。現在の瀬戸内海全体の基盤となっている花崗岩は、火山活動後の約8,000万年前に地下に貫入してきました。



＜鞆の浦周辺の地質図＞

## 【鞆の浦の地を形作る砂州】

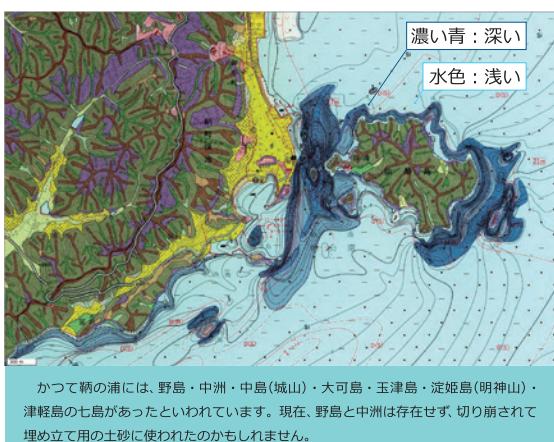
～なぜ鞆の浦は狭いのか～

約1万年前に氷河が溶けて海面が上昇し、現在の瀬戸内海ができました。そのとき、鞆の浦と仙酔島の間にも海水が入り、仙酔島などは島になりました。では、鞆の浦の平地はどのようにして形づくられたのでしょうか。

先ほどの地質図でみると、鞆の浦の平地は未固結の砂や泥からなり、後山や仙酔島を構成する流紋岩とは異なります。未固結の砂や泥の多くは鞆の浦の北にある芦田川から海に流れ、海流によって運ばれ、鞆の浦に堆積したもののが砂州をつくっています。また、後山から鞆の浦の平地に向かう谷の出口では、水によって運ばれた砂や礫の堆積物もみられます。

鞆の浦と仙酔島の間の海域は水深が深く、それ以外の海岸部は5m程しかないことから、砂州ができる前の鞆の浦も浅い海域だったと考えられます。また、大可島城跡や鞆城跡（現：福山市立鞆の浦歴史民俗資料館）もかつては沿岸部の小さな島だったようです。

このような沿岸部の浅い地形に土砂が堆積したり、小島に土砂がせき止められたりすることで砂州がつくられたと考えられます。そして、時代とともに埋立てが進み、その上に鞆の浦の町がつくられていきました。



## 【良港の条件が揃っていた鞆の浦】

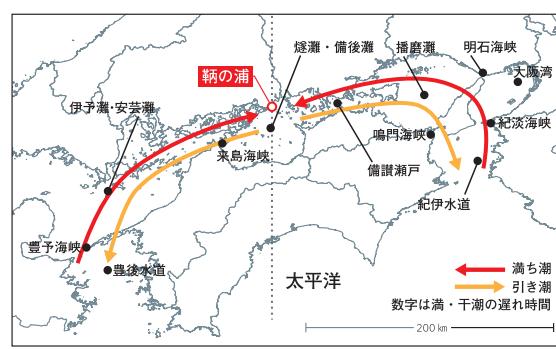
～瀬戸内海の真ん中に鞆の浦があった奇跡～

瀬戸内海の潮の変わり目 埋立ててまでこの地にたくさんの人が住んだのは、鞆の浦に良港としての条件が揃っていたからです。鞆の浦は瀬戸内海の中央部に位置し、潮流が変わることを待つ航海をしなければならない「潮待ち」に最も適した立地でした。

瀬戸内海では通常1日に2回の干満があり、ほぼ6時間ごとに潮流が逆転します。動力のない時代の船は潮流に頼って進むしかなく、目的地に向かうためには、潮流が望みの向きに切り替わるまで港町で待たなければいけません。これが「潮待ち」です。

瀬戸内海の中央にある鞆の浦は、満ち潮のときは紀伊水道と豊後水道の東西から入ってきた潮流が鞆の浦の沖合でぶつかります。引き潮のときは、鞆の浦の沖から紀伊水道と豊後水道に向かって潮が引いていきます。そのため、潮流に頼って航行していた動力のない船は、満ち潮にのって鞆の浦の港へ入り、引き潮にのって出航して東西へ移動していました。裏を返せば、鞆の浦を越えて瀬戸内海を航行するときは、潮流の変わり目となる鞆の浦に必ず立ち寄って「潮待ち」を行い、潮流が切り替わるのを待つ必要がありました。

瀬戸内海を航行する上で必ず立ち寄らなければならぬ鞆の浦は、瀬戸内海に数多くある「潮待ちの港」の中でも特別な港でした。



入り江地形と天然の防波堤 鞆の浦を上から見ると、まるで弧を描いたような独特な形をしています。これは砂州が形づくられた際、浅瀬や小島の位置関係から偶然できあがった形のようです。この形のおかげで鞆の浦は入り江となり、荒天時でも船が波風をしのぐことができました。また、仙酔島、大可島、玉津島などの島々が天然の防波堤の役割をしました。

このような波風をしのげる地形が、瀬戸内海の潮流の変わり目となる海域に突き出た半島の先端に位置していた…この偶然の重なりによって、鞆の浦は数々の「潮待ちの港」にふさわしい立地条件が揃った港となり、古くから海上交通の要衝として、また軍事的、政治的、そして経済的にも重要な位置を占めていくことになったのです。



〈鞆の浦の背後にそびえる後山〉



〈今も残る共同井戸〉

## 2. 海辺なのに真水が湧く？

### なりわい さまざまな生業を生み出した水

不思議なことに、鞆の浦は海辺にもかかわらず、真水の湧く井戸がたくさんありました。昔の鞆の浦の家々には井戸があり、町のいたるところには共同で使う井戸もありました。そのうち、一部の井戸は現在でも残っています。この真水が湧く理由には、鞆の浦の成り立ちが大きくかかわっています。

### 【鞆の浦の水源・後山】

鞆の浦の西側は後山と隣接しています。後山の標高は約280mと高くはありませんが、海辺の低地にある鞆の浦との高低差は一目瞭然です。

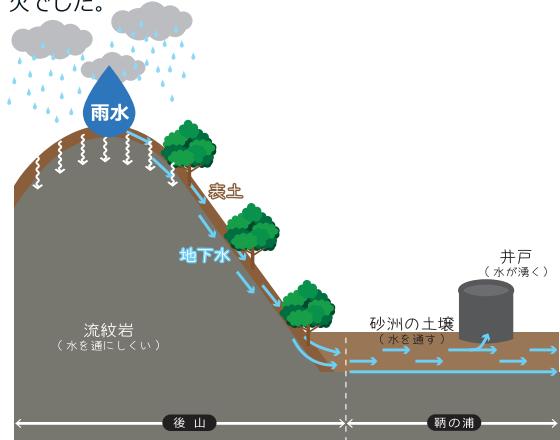
後山を含む鞆の浦一帯は、火山活動とともに噴出物が堆積した流紋岩でできています。流紋岩は透水性が低いため水を通しにくく、一方、鞆の浦の平地は土砂が堆積した砂州のため、透水性が高いと考えられます（ただし、流紋岩中の砂岩や泥岩の薄層には水が流れる場合があります）。

後山一帯に雨が降って雨水が地中に浸透すると、地下水となって標高の低い鞆の浦側に流れます。この地下水が鞆の浦に達すると、透水性の高い土砂の層から湧き出でます。

### 【港町と生業を育んだ鞆の浦の水】

多くの人々が暮らし、船乗りたちが潮待ちで滞在する鞆の浦では、たくさんの飲み水が必要でした。海岸沿いにもかかわらず真水が豊富に手に入ったことも、港町としての発展できた理由でしょう。鞆の浦は良港としての地形や地理的な条件だけでなく、水にも恵まれていたのです。

そして、製造に水が欠かせない鍛冶業や醸造業（保命酒）が生まれたのもこの真水があったからこそ。鞆の浦におけるさまざまな生業にとっても、この真水は必要不可欠でした。



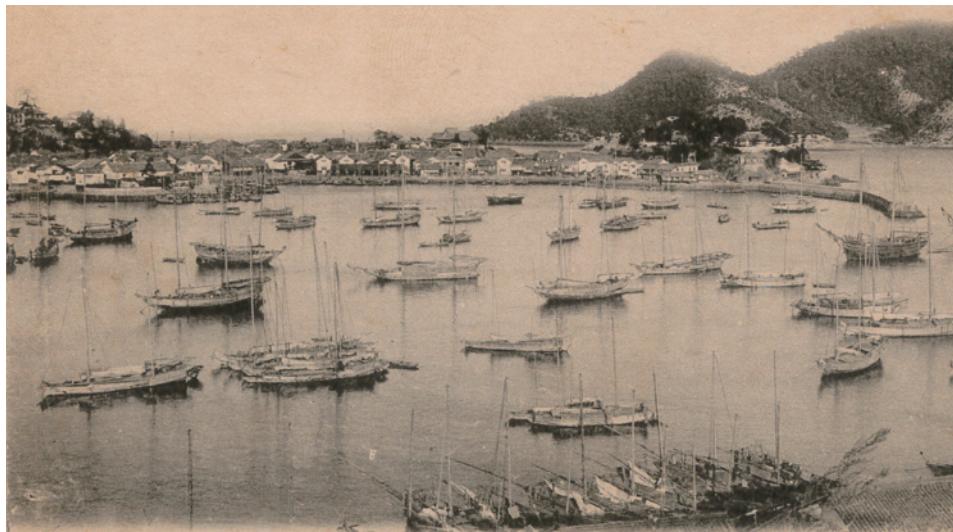
### ▶ 鞆の浦だけでつくられている保命酒

保命酒は、生薬を含む薬味酒で、現在は鞆の浦の4つの保命酒屋でしかつくられていません。焼酎、もち米、麹の3つと13種類の生薬を漬け込むことから、十六味地黄保命酒とも呼ばれています。醸造の途中までは本みりんと同じ工程で甘みがあり、生薬の香りが加わって独特な風味です。1659（万治2）年、醸造業が栄えていた当時の鞆の浦で、現大阪の医師・中村吉兵衛により考案されました。その後、保命酒は江戸幕府の庇護のもと高級品と扱われ、幕末にはペリー提督にもふるまわれたり、明治時代にはパリの国際万博に出展されました。



## 潮待ちの港から商業の港へ

良港として地形・地理的に恵まれ、また豊かな水にも恵まれた鞆の浦は、少なくとも千年もの間、日本における海上交通の要衝として世界と日本を結ぶ国際交流の拠点として繁栄しました。万葉集や太平記といった各時代の記録に当時のように書かれています。また、足利氏による「鞆幕府」や坂本龍馬の「いろは丸事件」など、歴史の話題が豊富にあるのも、長きにわたって繁栄した港町ゆえです。それらの歴史や町中に残る史跡などが評価され、2017(平成29)年にはユネスコ「世界の記憶」、重要伝統的建造物群保存地区、2018(平成30)年には鞆の浦の港町文化をテーマとしたストーリーが日本遺産に登録・認定されています。



<帆船でにぎわう鞆港> 提供:福山市鞆の浦歴史民俗資料館 (出典:絵葉書、大正時代)

## 3. 千年の港町・鞆の浦の歴史

### 【鞆の浦の変遷】

鞆の浦は記録が残る奈良時代から江戸時代の終わりまで、一貫して潮待ちの港でありつつ、時代ごとにその使われ方が移り変わっていきました。実は主な港の場所や姿は時代ごとに変化しています。奈良時代～平安時代ごろの港は流れてくる土砂により埋まったため、より南の方を整備していったという記録があります。



<各時代における海岸線位置の推定図>  
提供:福山市教育委員会

### <時代ごとの鞆の浦の移り変わり>

- 奈良時代以前:漁村
- 漁師たちが定住し、漁村が形成
- 奈良時代:潮待ちの港
- 鞆の浦の名前が初めて文献に現れる
- 平安時代:貿易の拠点
- 日宋貿易の拠点として栄える
- 鎌倉時代:鞆鐵冶の基礎
- 埋立てで居住区が広がり、鐵冶集団の基礎ができる
- 室町～戦国時代:貿易の拠点、軍事的要衝の港
- 勘合貿易の拠点としてより栄える
- 軍事的にも重要視され、鞆要害が築造
- 江戸時代:城下町、商業の港
- 鞆城建築、城下町が整備
- 北前船などの寄港地となり、商業の港としての最盛期
- 朝鮮通信使や琉球使節などが訪れた  
国際交流の拠点

### 【商業の港・鞆の浦】

江戸時代に西回り航路が整備されて以降、鞆の浦は北前船や九州船の寄港地となり、商業の港として著しく発展し、町にはたくさんの商家が建てられました。鞆の浦のにぎわいや経済はこの時代に最盛期を迎えました。

鞆の浦の輸入品と輸出品 主に綿作の肥料として、干しイワシやニシン粕などを輸入し、木綿やござ、鉄製品を鞆の浦から輸出していました。遠く離れた北海道で、福山地域の特産である備後絣の布が見つかっており、綿作のための肥料を鞆の浦で輸入し、備後で綿を栽培して織物にしたあと、再び鞆の浦から他の地方に輸出していましたことが分かります。



<備後絣の織物> 提供:福山観光コンベンション協会

### ▶ 鞆の浦は漁村から始まった

鞆の浦にもっとも古くから住み始めたのは漁師たちで、「潮待ちの港」として港町ができる以前から、現在の江の浦あたりに定住し始めたと言われています。彼らは帆引網、延縄、底曳網といったさまざまな漁法を開発し、その漁法は鞆の浦から周辺の漁村に伝わっていったと考えられ、この地域の漁業を牽引した存在でした。



COLUMN

鞆の浦に面する  
「山紫水明」の魅力



＜福禅寺「対潮楼」からの仙酔島の眺め＞ 提供：福山観光コンベンション協会

## 4. 鞆の浦と仙酔島

### 【鞆の浦の人々にとっての仙酔島】

**遊び場** 昔から鞆の浦に住んでいる人たちに話を聞くと、「仙酔島へは泳いだり、遊びに行ったりしていた」といいます。鞆の浦の海岸部は昔から港として開発され、急激に水深が深くなっているため、砂浜がほとんどありません。一方、仙酔島には「七浦七胡」と呼ばれる7つの地域に砂浜と大漁を祈る胡神社があります。かつての鞆の浦の子どもたちは鞆の浦にはない砂浜を求めて仙酔島に渡り、朝から夕方まで一日中遊んでいたようです。

**漁業の場** 仙酔島の遠浅の砂浜を利用して地曳網漁を行い、イワシやアジなどを獲っていました。また、仙酔島に「魚見台」を設け、島の沖合で漁をする船に魚群の位置を伝えていたそうです。

鞆の浦の代表的な漁業である「鯛縛り網」は仙酔島の沖合で行われます。「鯛縛り網」は春先から初夏にかけて、産卵のために瀬戸内海中央部に戻ってくる鯛を捕まえる漁法です。鯛は砂地に産卵するので、潮流の速い瀬戸が近い鞆の浦沖が産卵に適しているようです。



＜彦浦＞ 提供：鞆の浦しお待ちガイドの会

### 【仙酔島と多島美】



＜観光鯛網＞ 提供：福山観光コンベンション協会

### 【仙酔島に残る大地の痕跡】



**五色岩** 南側の海岸線には「五色岩」と呼ばれ、青・赤・黄・白・黒の色を帯びた岩石があります。色が異なる理由はよく分かっていませんが、岩石中の鉄が風化によって酸化したときに色を帯びたと考えられています。



＜海食洞＞ 提供：鞆の浦しお待ちガイドの会

**海食洞** 仙酔島の海辺にある洞窟は「海食洞」といい、波の侵食でできた天然の洞窟です。海水面よりも3~5mほどの高さにあり、現在よりも海水面が高かった時期があったことを示すものです。

## 知られざる 鞆鍛冶の歴史



＜唐人鍛造工程(沸し付け)＞ 提供：福山市鞆の浦歴史民俗資料館

## 5. 鞆の浦は鉄の町？

### 【鞆鍛冶の発祥】

あまり知られていませんが、鞆の浦は「鉄の町」でもあります。鞆鍛冶の発祥は定かではありませんが、江之浦（今の鞆港の周辺）の漁師のなかから漁具などの鉄製品を製造する鍛冶業を営む者が現れた、または備後の三原に住んでいた刀鍛冶の分派によって起こったともいわれています。

鍛冶では、熱した鉄を冷やすときに必ず“真水”が必要です。もし、鞆の浦が真水が湧かない土地であれば、鞆鍛冶の発展はなかったかもしれません。

また、古くから“たら製鉄”が盛んだった中国山地に近く、川や海の水運を利用して鍛冶に必要な鉄材、燃料、道具などを大量に仕入れることができました。そして、つくった鉄製品を全国に輸送できる港町だったことも、鞆鍛冶が発展した理由のひとつです。



＜刀（重政作）＞  
画像提供：福山市鞆の浦歴史民俗資料館

### 【鞆鍛冶の変遷】

中世までは刀鍛冶が盛んで、鞆の銘が刻まれた室町時代前期の刀剣が現存しています。戦国時代が終わり、平和な江戸時代になると、海運業の発達とともに刀鍛冶から、錨や船釘などを製造する船鍛冶に変化していきました。明治・大正時代（1868～1926年）の船釘・錨の積み出し量は鞆の浦が一番多く、日本的一大産地でした。

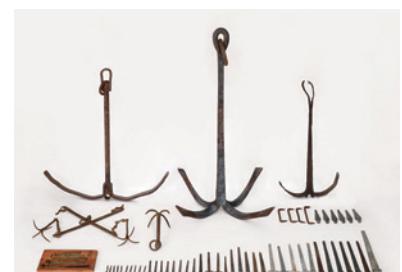
江戸時代の城下町づくりの際、鍛冶からおこる火災が町中に広がることを防ぐために、鍛冶屋は鞆の浦の北東に集められました。そこが現在の「鍛冶町」です。それでも、昭和中（1955年）ごろまでは鞆の浦のいたるところに個人の鉄工所があり、ガチャガチャという鍛造の音が町中に聞こえていたようです。近代化によってつくられる製品は船具から伸鉄やシャックル（吊り金具）などが主流となり、1968年には鞆の浦の東北端の埋立地に鉄鋼団地がつくられ、鞆の浦の鉄工所は集団で移転しました。

### 【今に息づく鞆鍛冶の技術】

伝統的な鞆鍛冶はほとんど姿を消しましたが、鞆鍛冶をルーツにもつ鉄鋼団地では、最新の精密加工技術と伝統的な鍛造技術を組み合わせたものづくりが受け継がれています。



＜表面の酸化物を古法どおり竹簾で除去＞  
画像提供：福山市鞆の浦歴史民俗資料館



＜鞆の浦でつくられた錨と船釘＞  
画像提供：福山市鞆の浦歴史民俗資料館

### ▶お手火神事と鞆鍛冶

鞆の浦の町にまだ鍛冶屋さんがたくさんいた時代、鞆の浦を代表する神事である沼名前神社の「お手火神事」を見物するため、鞆の浦周辺の島々の人たちが鞆港に船でやってきたといいます。その際、一緒にもってきた農具など鉄製品を神事を見物する前に鞆鍛冶にあずけて修理を頼んでおき、神事を楽しんだ後、修理を終えた鉄製品を受け取って元の島に帰っていく…、そんな鞆鍛冶の利用があったといいます。「潮待ち」をならぬ「鍛冶待ち」。時間のかかる鉄製品の修理を逆手にとった、良い時間の使い方です。

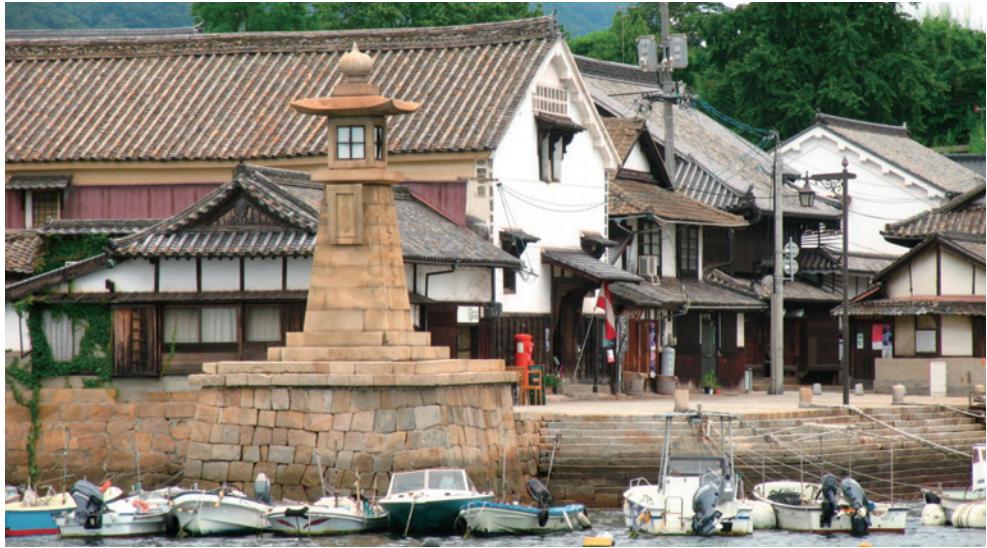


COLUMN

## 神社やお寺がたくさんの過密都市



〈寺町筋〉提供：鞆の浦しお待ちガイドの会



〈鞆の浦に残る近世の港湾施設(常夜燈・雁木)〉

## 6. 鞆の浦の町並み

### 【港町であり城下町でもある鞆の浦】

平地の少ない鞆の浦では、狭い土地になるべく多くの家を建てるための工夫がみられます。町屋は間口が狭く細長い形をしており、壁は隣の家と密着するか、外壁を共有して建てられています。また、建物同士の軒がぶつかるのを避けるために軒高は不揃で、町屋の並びをみると屋根の高さがデコボコしています。鞆の浦の道はまっすぐ敷かれているものが少なく、曲がっていたりT字になっていたりします。これは江戸時代のはじめに鞆城が建てられ城下町が整備される際、城に攻め込まれにくくなるように、わざと道は狭く、曲げてつくられました。

### 【神社もお寺も多い町】

鞆の浦にはかつて30寺程のお寺がありました。今は19寺になりましたが、それでも町の大きさと比較してもかなり多いです。なぜ、これほどお寺が多いのでしょうか。

その理由も港町だったことにあります。鞆の町にやって来る多くの人達への布教を目的にたくさんのお寺が建てられました。また、鞆の浦で活動していた大商人達は全国に取引先をもっており、お客様が鞆の浦に来たときにもてなす旅館代わりとして個人的なお寺を建てたようです。

また、神社も数多くあります。鞆の浦には今でも40社程の神社があり、実はお寺よりも多く残っています。古くから港町だった鞆の浦には、海上安全や航海の成功を祈願する神社が多く建立されました。鞆の浦の中心的な神社である沼名前神社では、海神である大綿津見命が祀られています。

神社もお寺も多い鞆の浦では、両者が融合した「神仏習合」の名残がみられます。例えば、医王寺はお寺ですが、鳥居があります。

### 【今も残る町並み】

～映像の町・鞆の浦～

鞆の浦には、最も栄えた江戸時代ごろの町並みが当時に近い形で残されています。当時の面影を残す町並みや路地、近世の5つの港湾施設が残っているのは、全国でも鞆の浦のみです。今も残る鞆の浦の町並みは観光地としてだけではなく、映画のロケ地としても日々活用されています。実写映画だけでも、鞆の浦で撮影されたものが28作品(2016年当時)もあります。テレビドラマやアニメなどのロケ地を含めると、その数はもっと増えます。港町・商業の町としての在り方は変わっても、残った町並みは新しい価値を生み出しています。



〈町屋の並び〉提供：鞆の浦しお待ちガイドの会

### ▶新種として世界に発表された仙酔島の植物

植物など、生きものを新種として記載する根拠となる「基準標本」は、基本的に世界に一つしかありません。実は、仙酔島で採取された標本が「基準標本」になっている植物があります。それがツメレンゲです。江戸時代にシーボルトの一行が仙酔島のツメレンゲを持ち帰り、1826年に新種として発表されました。仙酔島の崖部では、今でもシーボルト一行が採取したツメレンゲの子孫たちが生育しています。また、鞆の浦では古い瓦屋根の上にもツメレンゲが生えています。土を敷いた上に瓦を葺く「本瓦葺き」では、瓦の下の土に根をおろして生育しています。



瓦屋根の上に生えるツメレンゲ



COLUMN

港としての在り方が  
変わっても、変わらないもの



<お弓神事> 提供: 福山観光コンベンション協会



<お手火神事>

## 7. 鞆の浦の人々と祭事

### 【大切に引き継がれてきた祭事】

明治時代(1868~1912年)に入り、海上輸送の主流が潮流や風の力で航行する帆船からエンジンを積んだ動力船へと変わると、潮待ちのために鞆の浦へ寄港する必要がなくなりました。また、海上輸送から陸上輸送へ転換していくなかで、地域における物流の中心は鞆の浦から内陸部の福山の町へと移り変わっていき、商業の港としての機能は衰退し、今に至ります。

港としての在り方は変わっても、変わらずに引き継がれているものもあります。それが「祭事」です。鞆の浦には今でもたくさんの祭事があり、一年を通して行われています。これらの祭事の多くは「祭事運営委員会」により管理され、関係者はおよそ週に1回は会合など、何らかの活動に携わっています。祭の踊りを練習したり、口伝えに継承されてきたもの(例えば、お手火の組み方)を次世代に伝える役目もあつたりと大変そうですが、地域の皆さんが努力してこの祭事を守り、次世代に伝えたいという強い想いをもっています。この熱意があるからこそ、数々の祭事が大切に引き継がれてきたのでしょうか。

### 【鞆の浦の人々】

~歴史と話し合いを大切にする風土~

西日本の漁村では、家の格や本家・分家といった血縁関係よりも、青年・中年・長老などの年齢ごとの階層が重視され、より上位(長老)の意見が尊重される風土がみられます。このような地域社会の特長としては、同じ年齢層での議論の場合は皆の立場は対等であるため、「話し合い」による解決が重要視されることです。

鞆の浦は商業の港でしたが、漁村をルーツに持つからか、話し合いを重視する風土があるといいます。今、鞆の浦は人口減少、漁業などの産業の衰退など、さまざまな課題に面していますが、その打開に向けて、集まって議論して皆で意見を出し合うそうです。

「自分だけでは生きていけないし、生きていっても面白くない。だからみんなで集まって答えが出ことでも、ああだ、こうだって言い合う」、鞆の浦の方の言葉です。

鞆の浦は何事に關しても、昔の歴史や文化を大切にしている町だと感じます。祭事や町並み、鯛網など。そして鞆の浦でこれまで起きた歴史上のエピソードは、ガイドさんたちによって継承されています。

人口3,200人程の小さな町に、これほどたくさんの歴史と文化があって、それが現在まで息づいているのは、年長者の話を尊重して、昔からの文化を引き継ぐこと大切にする、そして、何かあれば皆が合意するまで話し合いを続ける… そんな鞆の浦の人々の気質のようなものがかかわっているのかもしれません。

### 【鞆の浦の代表的な祭事】

**お弓神事** 1年 の悪鬼を射払って、その年の平穡無事を祈る八幡神社の祭事で、鞆の浦の冬の風物詩です。弓をひく弓主は前日に「叙位詣」という儀式によって「從五位下」という位を神様から授かります。弓を引く神事で位を授かるというのは鞆の浦のお弓神事だけにあるものです。弓を引く作法も、伝統的な衣服である素袍と長袴を着て片肌脱ぎで弓をひくという、昔から引き継がれてきた作法を守っています。

**お手火神事** 鞆の浦の中心的な神社である「沼名前神社」夏の火祭りです。病気払いや海上安全を祈願する祭事でもあり、大手火の燃えた黒こげの木片を神棚に供えると、病気の厄払いになると信じられてきました。全長約4.5m、重さ200kgを超える3本の松明が炎を上げ、火の粉をかぶりながら氏子が担ぎ、45段の大石段を練りあがっていきます。

**渡守神社例祭(秋祭り・チョウサイ)** 沼名前神社に統合されている渡守神社の例祭です。祭りが行われる3日間は鞆の浦の人口が3倍になるという逸話もあるほど、鞆の浦の町は盛り上がります。なかでも、「チョウサイ」と呼ばれる布団山車を引き、太鼓を打ち鳴らして夜通し練り歩く3日の夜、祭りのにぎわいは最高潮に達します。



<渡守神社例祭(秋祭り・チョウサイ)>  
提供: 鞆の浦しお待ちガイドの会

## [ 参考文献 ]

### [ 1. 鞆の浦 成り立ちの秘密 ～地形・地質と潮流から読み解く鞆の浦繁栄の理由～ ]

＜火山活動 … 後山と仙酔島の成り立ち＞

- GeoInformation Portal Hub (GIPH) (2024), 「広島県：鞆の浦と仙酔島」, 地形・地質情報ポータルサイト 日本の地形千景プラス, [https://www.web-gis.jp/GM1000/LandMap/LandMap\\_15\\_001.html](https://www.web-gis.jp/GM1000/LandMap/LandMap_15_001.html).
- GeoInformation Portal Hub (GIPH) (2024), 「広島県：鞆の浦と仙酔島」, 地形・地質情報ポータルサイト 日本の地形千景プラス, [https://www.web-gis.jp/GM1000/LandMap/LandMap\\_15\\_001.html](https://www.web-gis.jp/GM1000/LandMap/LandMap_15_001.html).

＜良港の条件が揃っていた鞆の浦 … 濱戸内海の真ん中に鞆の浦があった奇跡＞

• 有限会社南々社 編 (2007) 「瀬戸内海事典」, 南々社,

- 福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会 編 (2016) 「鞆の浦の自然と歴史 - 改訂六版 -」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会,
- 会誌編集専門委員会 編 (2024) 「人が行き交う港『鞆の浦』」, 土木遺産の香 第90回, 建設コンサルタント協会会誌 vol.304, pp.42-45.

### [ 2. 海辺なのに真水が湧く？ ～様々な生業を生み出した水～ ]

＜コラム：鞆の浦だけで作られている保命酒＞

- 鞆物語運営チーム (2013) 「鞆の浦の保命酒」 <https://tomonoura.life/about/homei-shu/>.

### [ 3. 千年の港町・鞆の浦の歴史 ～潮待ちの港から商業の港へ～ ]

＜鞆の浦の変遷＞

- 森久聰 (2011) 「伝統港湾都市・鞆における社会統合の編成原理と地域開発問題 年齢階梯制社会からみた『鞆港保存問題』の試論的考察」, 社会学評論 62巻3号, pp.392-410.
- 福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会 編 (2016) 「鞆の浦の自然と歴史 - 改訂六版 -」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会,
- 福山市教育委員会 (2018) 「鞆 町並みの魅力」, 福山市教育委員会事務局文化財課,
- 会誌編集専門委員会 編 (2024) 「人が行き交う港『鞆の浦』」, 土木遺産の香 第90回, 建設コンサルタント協会会誌 vol.304, pp.42-45.

### [ 4. 鞆の浦と仙酔島 ～鞆の浦に面する「山紫水明」の魅力～ ]

＜鞆の浦の人々にとっての仙酔島＞

- 福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会 編 (2016) 「鞆の浦の自然と歴史 - 改訂六版 -」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会,
- 福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会 編 (2016) 「鞆の浦の自然と歴史 - 改訂六版 -」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会,
- 橋爪紳也 (2014) 「瀬戸内海モダニズム周遊」, 芸術新聞社,

### [ 5. 鞆の浦は鉄の町？ ～知られざる鞆鉄治の歴史～ ]

- 森久聰 (2011) 「伝統港湾都市・鞆における社会統合の編成原理と地域開発問題 年齢階梯制社会からみた『鞆港保存問題』の試論的考察」, 社会学評論 62巻3号, pp.392-410.
- 福山市鞆の浦歴史民俗資料館 編 (2021) 「特別展 鞆鉄治～船釘・錨の日本～」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館,
- 日本遺産鞆の浦魅力発信協議会 (2020) 「ものづくりの原点、鉄治職人の匠の技に触れる - 三晩」, VISIT 鞆の浦, <https://visitmonoura.com/2020/01/1187/>.

### [ 6. 鞆の浦の町並み ～神社やお寺がたくさんの過密都市～ ]

＜港町であり城下町でもある鞆の浦＞

- 福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会 編 (2016) 「鞆の浦の自然と歴史 - 改訂六版 -」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会,
- 福山市教育委員会 (2018) 「鞆 町並みの魅力」, 福山市教育委員会事務局文化財課, <神社も仏閣も多い町>
- 鞆物語運営チーム (2013) 「静観寺の物語り」 <https://tomonoura.life/story/12421/>.
- 福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会 編 (2016) 「鞆の浦の自然と歴史 - 改訂六版 -」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会,
- 今も残る町並み ～映像の町・鞆の浦～
- 通堂博彰 監修 (2016) 「福山市市制 100周年記念事業 鞆の浦シネマガイド」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会,

### [ 7. 鞆の浦の人々と祭事 ～港としての在り方が変わっても、変わらないもの～ ]

＜鞆の浦の人々 … 歴史と話し合いを大切にする風土＞

- 森久聰 (2011) 「伝統港湾都市・鞆における社会統合の編成原理と地域開発問題 年齢階梯制社会からみた『鞆港保存問題』の試論的考察」, 社会学評論 62巻3号, pp.392-410.
- 鞆の浦の代表的な祭事
- 福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会 編 (2016) 「鞆の浦の自然と歴史 - 改訂六版 -」, 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会,
- 藤井敬子・クラモトマオ 編 (2022) 「鞆の浦めぐり」, 栄光ブックス .

(ウェブサイトの参照日：2025/3/24)

## [ 表紙写真 ]

• 表紙メイン写真 提供：鞆の浦しお待ちガイド

|      |                 |
|------|-----------------|
| 発行日  | 2025年3月         |
| 発行元  | 環境省 中国四国地方環境事務所 |
| 編集作成 | 株式会社地域環境計画      |